

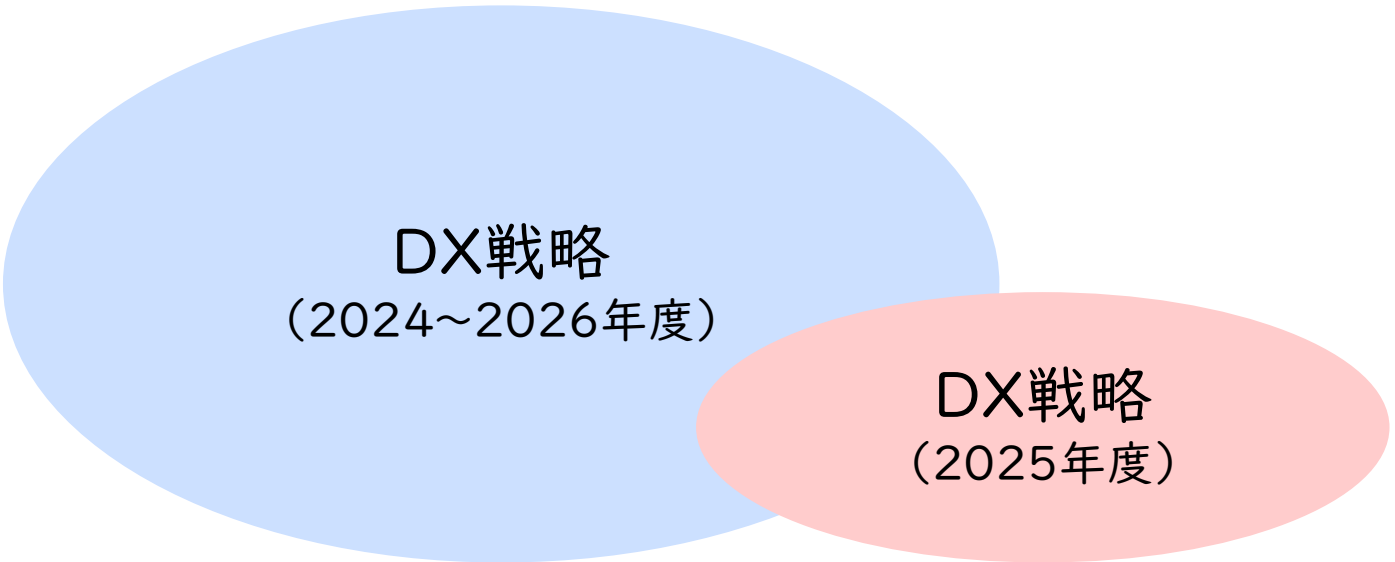
上越信用金庫 DX戦略

2025年度版

～ DXの着実な推進と定着を目指して ～

本戦略は、DX戦略（2024～2026年度）を基本的に踏襲しつつ、2025年度における取組項目および組織体制の変更を反映して修正したものです。

なお、本戦略に記載のない事項については、DX戦略（2024～2026年度）の内容を継続して適用するものとします。



DX戦略
(2024～2026年度)

DX戦略
(2025年度)



DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、「デジタル技術を活用して業務や組織を変革すること」です。

当金庫では、人口減少による人手不足に対応するため、業務の効率化と地域のデジタル化支援を進めています。

DXは関連部会だけでなく、職員全員で力を合わせて進めていく取り組みです。

2024年度の振り返り(取り組み事項)

2024年度は「地域へのデジタルサービス提供」を中心に取り組み、地域社会における上越信用金庫のDX推進活動の認知向上を図りました。

【戦略1】

地域へのデジタルサービス提供

【地域・お客さまのDX支援】

- ・NPO法人上越地域活性化機構 (ORAJA)との提携(2024年9月)
- ・地域のお客さま向けセミナーの開催(3回実施、25企業参加)
- ・DX相談のトスアップ
(DX総合相談窓口1企業、ORAJA 2企業)

【お客さまとのデジタル接点の強化】

- ・Webサイトの全面更改
(2025年1月)
- ・来店予約サービスの拡充
(2025年1月)

【戦略2】

業務のデジタル化促進

【アナログ業務のデジタル化】

- ・ワークフローの本部内運用開始
(2025年3月)
- ・営業店窓口支援システムの導入
(2025年1月)

【データ・AIの業務への活用】

- ・「しんきんDB」の導入準備

【戦略3】

職員のデジタル対応

【職員のデジタルリテラシー向上】

- ・DX基礎講座研修の実施
(2024年4月・10月)

【暗黙知の形式知化促進】

- ・グループウェアFAQの登録項目
拡充



2024年度の振り返り(KPI)

2024年度に重点的に取り組んだ「地域へのデジタルサービス提供」の指標に成果が表れています。
その他の項目についても、着実な増加傾向が見られ、全体として取り組みの進展がうかがえます。

DX推進指標

0.8 → 1.4

※DX推進指標は、企業がDXを推進する上で、自社の現状や課題を自己診断するためのツールであり、経済産業省が公開しています。

【戦略1】

地域へのデジタルサービス提供

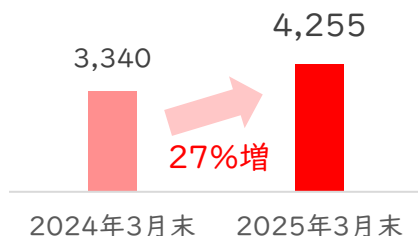
■地域・お客さまのDX支援数
(セミナー等参加企業含む)

0 → 28企業

■デジタルサービス利用顧客率

5.44% → 7.33%

※デジタルサービス利用顧客率の増加は、
「通帳アプリ」契約者数の増加が主な要因です。



【戦略2】

業務のデジタル化促進

■デジタル化に移行した業務の数
(ワークフローへの切替帳票数含む)

0 → 7業務

■データ分析プロジェクト数

該当なし

※しんきんDB未開始のため

【戦略3】

職員のデジタル対応

■「FAQシステム」登録質問数

74個 → 95個

■奨励デジタル関連取得者数

5人 → 6人

■デジタルリテラシー勉強会受講率

0 → 100%



2025年度の重点取り組み項目

2026年度末までの手形・小切手の全面的な電子化やキャッシュレス対応が求められていることを踏まえ、**本年度は「お客さまのデジタル化推進」に重点的に取り組みます。**

また金庫内部については、「**ワークフローの営業店展開」「窓口支援システムの導入店舗拡大」「しんきんDBの活用定着**」により、業務効率化とデジタル化の定着を図ります。

【戦略1】

地域へのデジタルサービス提供

手形・小切手の電子化やキャッシュレス対応を見据え、デジタルサービス移行を支援し、お客さまの事務負担軽減と利便性向上、社会全体のデジタル化に対応します。

【地域・お客さまのDX支援】

- ・「お客さまのデジタル化推進」
- インターネットバンキングの利用促進
- でんさいサービス（電子記録債権）への切り替え促進
- e-TAX、eLTAXの導入支援と利用推進

【戦略2】

業務のデジタル化促進

ワークフローの営業店展開、窓口支援システムの導入店舗拡大、しんきんDBによる活用定着による業務効率化を図ります。

【アナログ業務のデジタル化】

- ・営業店へのワークフローの展開
- ・営業店窓口支援システムの導入店舗の拡大

【データ・AIの業務への活用】

- ・「しんきんDB」の活用定着

【戦略3】

職員のデジタル対応

職員一人ひとりがデジタル社会に対応できるよう、DXの必要性和情報セキュリティを中心としたリテラシー向上研修を実施します。

【職員のデジタルリテラシー向上】

- ・DX基礎講座の実施
- ・情報セキュリティ研修の実施



2025年度の成果目標(KPI)

「地域へのデジタルサービス提供」および「業務のデジタル化促進」に重点的に取り組む方針を踏まえ、各指標の目標を以下のとおり設定します。

DX推進指標

(目標) 1.8

【戦略1】

地域へのデジタルサービス提供

■地域・お客さまのDX支援数
(セミナー等参加企業含む)

(目標) 30企業

■デジタルサービス利用顧客率
(目標) 9.00%

【戦略2】

業務のデジタル化促進

■デジタル化に移行した業務の数
(ワークフローへの切替帳票数含む)

(目標) 15業務

■データ分析プロジェクト数
(目標) 3件

【戦略3】

職員のデジタル対応

■「FAQシステム」登録質問数
(目標) 150個

■奨励デジタル関連取得者数
(目標) 10人

■デジタルリテラシー勉強会受講率
(目標) 100%



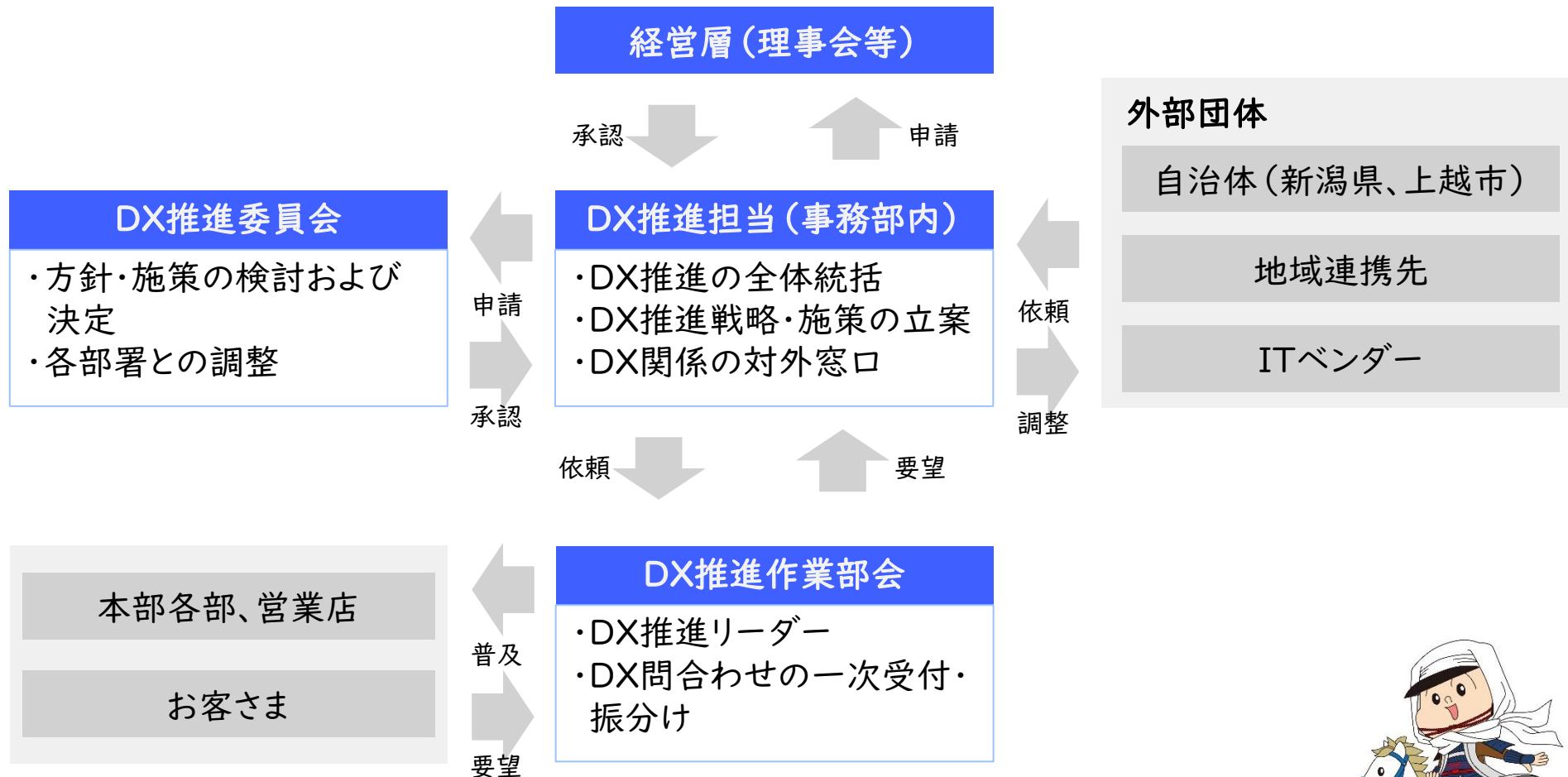
今後のスケジュール(実行計画)

2025年度重点取り組み項目を中心に以下のスケジュールで推進します。

項 目		上期	下期
【戦略1】 地域へのデジタルサービス提供	地域・お客さまのDX支援	セミナーの開催、専門家へのトスアップによるお客さま支援	
		お客さまのデジタル化推進 (IB、でんさい、e-Taxなど)	
	お客さまとのデジタル接点の強化	通帳アプリ拡充	しんきん保証システム更改
【戦略2】 業務のデジタル化促進	アナログ業務のデジタル化	ワークフローの取組み	
			営業店窓口支援システム拡大
	定型業務の自動化		マクロ・スクリプトやRPAによる業務の自動化
	データ・AIの業務への活用	しんきんDBの活用定着	
【戦略3】 当金庫・職員のデジタル化対応	データドリブンな組織風土の醸成	金融データ活用推進協会の事例研究	
	暗黙知の形式化促進	FAQシステムの充実	デジタル統合文書管理基盤の検討
	全職員のデジタルリテラシー向上	DX基礎講座、情報セキュリティ研修勉強会（データに関する勉強会含む）の開催	

DX推進体制について

DX推進をより強力に進めるために、2025年3月に事務部内へ「DX推進担当」を設置しました。
今後は、この「DX推進担当」を中心に、金庫一体となって推進を図ります。



このふるさとが誇りです。



上越信用金庫